「グリーフサポートせたがや」の連続講座

わたしの気持ちとあなたの気持ち

~エモーショナルリテラシーと自尊心を考える~

「エモーショナルリテラシー」とは「自分の気持ちを理解し、他者の声に耳を傾け、他者の気持ちに共感し、自分や他者に役立つようなやりかたで自分の気持ちを表現できる」ことをいいます。今回の連続講座は「気持ち」 に焦点をあて、多様な専門分野で活動されている講師の方々をお招きし、それぞれの「現場」の経験からお話ししていただきます。グリーフは一人ひとり違うだけでなく、一人のなかで様々な感情がわきおこります。 この講座を通して「気持ち」を大切に扱うことの意義を考えたいと思います。

第1回

2016年4月23日(土)午後2時~4時 「基本的自尊心と共有体験」

近藤 卓さん(山陽学園大学教授)

第2回

2016年6月25日(土)午後2時~4時 「子どもたちが主人公の活動支援」

甲斐田 万智子さん

(NPO法人国際子ども権利センター(シーライツ) 代表理事、文京学院大学教授)

第3回

2016年9月3日(土)午後2時~4時 「ひとりじゃないよ ~怒りは願いの裏返し

副島 賢和さん(昭和大学大学院准教授)

第4回

2016年11月5日(土)午後2時~4時 「希望の回復」

坂上 香さん(ドキュメンタリー映画監督)

参加 費:1.000円(介助者無料、ノートテイク・手話通訳つき)

会場:第1回・第4回: 世田谷区役所「ブライトホール」(世田谷4-22-33 世田谷区役所第3庁舎3階) 第2回・第3回: 世田谷区民会館2F集会室(世田谷4-21-27)

※ 両会場ともに東急世田谷線「世田谷」駅・「松陰神社前」駅から徒歩5分

参加申込み:griefsetagaya@yahoo.co.jpまたは、電話:03-6453-4925まで下記情報をご連絡ください。 参加希望の日付/お名前/連絡先(メールアドレス)/必要なサポートの有無(保育あり・要予約)

●会場にはエレベータがあり、会場内は車いすで移動できます。最寄り駅のエレベータの設置状況については「らくらくおでかけネット(http://www.ecomo-rakuraku.jp)」のサイトが参考になります。

●人数確認のため事前予約をお願いしていますが、当日飛び込み参加も大歓迎です。





わたしの気持ちとあなたの気持ち

~エモーショナルリテラシーと自尊心を考える~

E • 3

第一回

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

X

*

*

*

「基本的自尊心と共有体験」 2016年4月23日(土)午後2時~4時

▍近藤 卓さん(山陽学園大学教授)

東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。専門は健康教育学、臨床心理学。高等学校教諭、中学校・高等学校カウンセラー、ロンドン大学精神医学教室・研究員、群馬大学、立教大学、東海大学などを経て山陽学園大学に勤務。動くモノや機械モノ、音の出るモノが好きで、これらがあれば何時間でも一人遊びをしている。主な著者に『乳幼児期から育む自尊感情』(エイデル研究所 2015)、『基本的自尊感情を育てるいのちの教育』(金子書房 2014)、『子どもの自尊感情をどう育てるか』(ほんの森出版 2013)、『PTG 心的外傷後成長』(金子書房 2012)、『自尊感情と共有体験の心理学』(金子書房 2010)ほか多数。

第**2**回

「子どもたちが主人公の活動支援」 2016年6月25日(土)午後2時~4時 甲斐田 万智子さん(NPO法人国際子ども権利センター(シーライツ)代表理事、文京学院大学教授)

日本ユニセフ協会に勤務後、イギリス・サセックス大学大学院(IDS)に留学。ブータン滞在を経て、1992年からインドに4年間滞在し、児童労働問題に関わる。1996年に国際子ども権利センターに入職。2003年からカンボジアに4年滞在し、子どもの人身売買、性的搾取、児童労働の防止活動に携わる。タイに3年滞在後、2010年に帰国。困難な状況にある子どもたちに子どもの権利を伝えてエンパワーすること、子どもたち主体の活動支援に携わってきた。ネパール地震後の子ども支援にも携わっている。共著『児童労働撤廃に向けて』(アジア経済研究所2013)、共著『国際協力のレッスン』(学陽書房2013)など。

「ひとりじゃないよ〜怒りは願いの裏返し〜」 2016年9月3日(土)午後2時〜4時 第3回 副島 賢和さん(昭和大学大学院准教授)

東京都公立小学校教諭として25年間、東京都内に勤務。2001年東京学芸大学大学院修了。2006年より品川区立清水台小学校「さいかち学級」担任。2014年4月より昭和大学大学院保健医療学研究科准教授として「さいかち学級」を担当。学校心理士スーパーバイザー。小林正幸氏(東京学芸大学大学院教授)らと共に、「チーム仕事師」のメンバーとして「みどりの東北元気キャンプ」をおこなう。また「パッチ・アダムス」として有名なハンター・キャンベル・アダムス氏(米国)のホスピタル・クラウンの活動に参加している。著作に『あかはなそえじ先生のひとりじゃないよ』(教育ジャーナル選書 2015)、『学校でしかできない不登校支援と未然防止』(東洋館出版 2009)等。2011年には、『プロフェッショナル仕事の流儀』(NHK総合)に出演。

第**4**回

「希望の回復」 2016年11月5日(土)午後2時~4時

回 坂上 香さん(ドキュメンタリー映画監督)

6年半の米国留学生活、コロンビアやチリ等南米諸国での放浪を経て、ドキュメンタリー番組制作の道へ。HIV/AIDSに母子感染した米国の子ども達の日常を描いた番組でATP新人賞を受賞。暴力の加害や被害、そこからの回復をめぐる番組や著書も多数。2004年には初の自主製作映画『Lifers ライファーズ 終身刑を超えて』をプロデュース・監督し、国内外で数々の賞を受賞。各地の劇場や刑務所等で上映され、好評を得る。最新作は『トークバック 沈黙を破る女たち』。現在はエモーショナルリテラシーを意識した国内初の刑務所を映画化すべく邁進中。著書に『癒しと和解への旅 犯罪被害者と死刑囚の家族たち』(岩波書店 1999)、『ライファーズ 罪に向きあう』(みすず書房 2012)など。

グリーフサポートせたがや(グリサポせたがや)って?

米国オレゴン州に「ダギーセンター」という団体があります。ダギーセンターは、死別を体験した子どもたちが集い、遊びやおしゃべりを通じて、悲しみや辛い気持ちに向き合うことのできる家です。自分たちが暮らす地域でも同じような活動を始めたいと思い「グリーフサポートせたがや」を立ち上げました。世田谷区太子堂にある「サポコハウス」で子どもや大人を対象にグリーフサポートプログラムや個別相談を行っています。

私たちは、死別喪失だけでなく、離別、暴力被害(安心感の喪失)、紛争や自然災害による被災(住まいや地域とのつながり、経済的な生活手段の喪失)、失業や就職難(希望の喪失)、貧困(人間らしい生活を営む権利の喪失)、いじめ、年齢・性・民族・宗教・障害・性指向や性自認などによる差別(自尊心やアイデンティティの喪失)、非婚や不妊などへの社会の不寛容(自己肯定感の喪失)など、直接・間接的な要因に起因するすべてをグリーフと捉えています。

Tel: 03-6453-4925 Fax: 03-6453-4926 常勤スタッフがいないため、留守電にお名前とご連絡先を入れてください。

サポコハウス: 世田谷区太子堂5-24-20-201 (三軒茶屋駅から徒歩15分)

(二軒茶屋駅から徒歩15分 Roppelse org

sapoko.org

fwww.facebook.com/griefsupportsetagaya



*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

 *

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

主催:一般社団法人グリーフサポートせたがや 共催:世田谷区 所管:世田谷区保健所健康推進課 電話:03-5432-2947